

タウンミーティングにおける主な意見と対応

1 開催状況等

- ・本年度、健康福祉局で策定する保健・医療に関する5つの計画（健康増進計画、保健医療計画など）を対象として、県民や医療・保健関係者等の方々との意見交換等を実施
- ・次のとおり県内9か所で開催し、参加者数は各会場50～100名程度

	圏 域	月日(曜日)	会 場	
第1回	広島(安芸郡)	12/ 3(月)	サンピア・アキ	(安芸郡海田町)
第2回	広島(広島北)	12/ 5(水)	千代田中央公民館	(山県郡北広島町)
第3回	広島西	12/ 9(日)	日本赤十字広島看護大学	(廿日市市)
第4回	呉	12/17(月)	広島県呉庁舎第2庁舎	(呉市)
第5回	備 北	12/20(木)	広島県三次庁舎第3庁舎	(三次市)
第6回	福山・府中	1/16(水)	広島県福山庁舎第3庁舎	(福山市)
第7回	尾 三	1/17(木)	尾道市総合福祉センター	(尾道市)
第8回	広島中央	1/18(金)	広島県東広島庁舎	(東広島市)
第9回	広島(広島市)	1/23(水)	広島県庁	(広島市)

2 主な意見と対応等（がん対策推進計画関係分）

	意 見	対応（計画への反映等）
第1回	たばこは、嗜好品で、違法なものではなく、 税収面でも多大な貢献をしている。既に十分 すぎるほどの規制もある。今更なぜこんな目 標数値を掲げるのか。たばこ小売店への営業 妨害である。 喫煙率は年々減少しているが、がん死亡者 は年々増加している。がんは、たばこが原因 ではないと思う。	・たばこががんの関係について、科学的根拠 に基づくデータを記載する。
	たばこ対策として、公共の場での禁煙対 策、ルールは必要である。喫煙は本人の自己 責任であり、たばこ屋さんの営業も分かる が、吸わない者への配慮は必要である。	・取り組むべき対策の一つとして、「受動喫 煙の防止」を取り上げている。
	口腔がんの早期発見のための目標を、いつ かは盛り込んでもらいたい。	・現時点では口腔がんの検診として確立され たものはないが、国の動向等も見ながら、検 討していく。
第2回	がん検診受診率の向上のため、県が集合契 約し、県内どこでも検診を受けることので きる仕組みをつくってほしい。	・取り組むべき対策の「受診しやすい環境づ くり」で、検討を進めていくこととしている。
第3回	がん予防でたばこだけ取り上げるのはい かがなものか。	・食事、運動等の生活習慣の改善や、感染症 対策も取り上げている。
	がん検診は、診療として受けている人もい る。職場で受ける人もいる。受診率を測定す る統計に問題がある。診療で胃カメラを飲ん でいる人は、検診でバリウムは飲まない。ど れを捉えるか。 また、検診の受診率だけを言うのではなく、 罹患率や死亡率も合わせて見せるべき。	・困難な課題だが、取り組むべき対策として 「受診実態の把握」をあげており、今後も検 討する。 ・検診と早期発見の関係については、がん罹 患データによる分析を行っているので、説明 を加える。
	がん検診について、早期発見の重要性を誰 がどうやって理解させるのか、具体的な取組 が必要	・県民の意識段階の応じた啓発や個別受診勧 奨などを盛り込んでいる。事業化の中で、効 果的な手法を検討する。
	がん検診もそうだが、教育が重要。煙草の 教育を小学校でやっているが、取組が必要。	・がん教育について、新たにに取り組むことと している。
	がん検診は、事業主への義務付けは無理に しても、会社を取り込むことが必要ではない か。	・民間企業等にもがん対策に参画していただ くための仕組みづくりに取り組むこととし ている。

	意見	対応等（計画への反映）
第4回	計画素案を読むと、県民がサービスの受けてのような書き方が多いと感じる。県民はこれをやるというようなどころがあっているのではないか。	・県民が主体的に行動する県民総ぐるみのがん対策を目指しているところ。県民に取り組んでいただきたい行動や役割について、分かりやすく示すこととする。
	オストメイトの団体である。検診は、行かなくて発見が遅れた私のような患者の声を使って訴えたらどうかと思ったが個人的感想だ。患者団体というものを、県はどのように捉えているか。 また、オストメイト対応トイレの増設など訴えているが、なかなか進まないのだが、このような点は何か考えはあるか。	・患者団体からは、ヒアリング・ワークショップなどで意見をいただいて検討に反映させている。 ・情報提供の充実など、オストミーへの支援についても計画に盛り込む。
	がん患者が特に多いわけでもないし、何か問題があるとも思えないのに、なぜ「がん対策日本一」を掲げるのか。	・2人に一人はがんに罹り、死亡原因の第一位であるほか、今後もがん患者は増加の見込み。また、患者を含めた多くの関係者から、がん対策の課題について意見をいただいております。県民の安心のためにはがん対策は喫緊の課題。がん対策の重要性や様々な課題について、わかりやすく記載する。
	（乳がん・子宮がんの検診無料クーポンでは大きな受診率向上は無かったという説明を受けて）子宮がんは、これまで極端に低かった20代30代の引き上げ効果は確実にある。来年度で5年経つので終了すると思うが、続けるべき。 一方で呉市は無料クーポンはやっていないが、県はどう考えるか。）	（クーポン事業については、継続を要望していきたい。 呉市は、特定の人に手厚くよりも、対象者に等しく機会を広げるという考え方であるが、機会をみて意見交換したい。）
第6回	バラ祭りへの参加、チラシ配布などでがん検診の受診促進に取り組んでいるが、受診率につながらない。お金がかかるという人に「お金と命どちらが大切か」と働きかけると、わかってもらえたりもするのだが。 体験者を連れて行くと効果的な場合もある。	・県民の意識段階に応じた啓発や個別受診勧奨など、効果的な取組を推進していくこととしている。 ・「ピア・サポートの充実」も取り上げる。
	予防は、ワクチン接種が必要ではないか。	・子宮頸がんワクチンについて記載している。
第8回	喫煙率が下がっていない。受動喫煙を防止するためにも、たばこの条例について検討すべき。	・今後の検討課題とする。
第9回	第2次計画期間中にがんの条例ができれば、変わってくるのではないか。	・今後の検討課題とする。
	国の基本計画で取り組むようになっている、子どものがんや教育、医療と介護の連携はどのように取り組むのか。	・小児がん対策、がん教育、医療と介護の連携についても盛り込んでいる。
	検診の対象者としては、企業等の働く世代もあるが、罹患率の高い高齢者への対策も重要である。 受診率だけでなく、例えば低線量CTなど検診方法の検討も必要ではないか。	・年齢など対象者に応じたメリハリのつけ方については、今後も更に検討していきたい。 ・検診方法の検討についても盛り込む。
	これまでの5年間で女性の喫煙率が上がった原因の分析や、成人女性で若い方の喫煙率を下げることの検討が必要。	・今後も要因等の分析を進めるが、対策として妊婦検診をきっかけとした禁煙支援を盛り込む。

第5回、第7回は特に意見なし